令和６年度　学校評価（自己評価）

０．はじめに

本年度は、安松幼稚園の国語教育について、検証・評価を行うこととした。

聞く　話す　読む　書く　考える　感じる　など全ての知的作業は、国語（多くは母国語）を用いて行われる。国語教育は、幼児期・義務教育期間においては、教育の根幹となるべきものである。

このような意識を持ちながら、評価を行っていきたい。

●以下、目標設定（P）　実行（D）　評価（C）　A(改善)　の各要素について、学校評価を行う。

Ⅰ．目標設定（P）……安松幼稚園設立の意味を学びたい

安松幼稚園の開園は 1949 年、大東亜戦争に敗れて 4 年後のことで、令和 7 年度で創立 77 周年となります。現理事長の祖父が、日本復興のために、何をすればいいかと苦慮する中、一つの考えに思い至り園を設立しました。

設立趣意書には、「心身共に健全なる幼児の育成に努め、以て文化日本の建設に九牛の一毛にてもお役に立つべく決心した次第です」とあります。

この設立の趣旨に基づき、安松幼稚園では、**子供たちへの文化の伝承**　その為には**国語教育の充実**　を教育の根幹においています。

具体的には　☀一国の文化は　その国の国語に帰着する

☀国語力とは語彙力であり　語彙力は漢字力が培う

☀脳に可塑性のある幼児期こそが　漢字吸収の最適期である

これら 3 点を大切にしていますので、本日は、主としてこれに従って検証していきます。

Ⅱ．実行（D）

安松幼稚園における幼児教育の中で、どのような実行・実践がなされているかについて確認していく。

①語彙・単語の獲得　まずは、話し言葉を多く獲得させること

★そのためには、日常生活の中で、先生方の丁寧な語り掛けが多くなされているかどうかが第一のポイントになる。

②次には文章の意味を理解できるかが、次の大きなステップとなる

その際、丁寧な綺麗な日本語で語りかけているかも重要な観点である。

★（満）3 歳児の入園時には、今までの生活環境の違いから園児のもっている語彙数に大きな差がある。そこで先生からの「机の上に鞄を置きましょう」などの話しかけを例にとり、具体的な指導の一端に触れてみる。

まずは、実物を手にして　<u>机</u>の説明（机という語彙の意味）　<u>鞄</u>の説明　<u>上</u>の意味の説明　<u>置く</u>という動詞の意味 について、すべて丁寧に説明していく。その説明は大きく 3 種に分けられる。

- 机　鞄　など、目に見える具体物の説明
- 上　のように具体物ではなく目に見えない概念の場合は、上と反対語の下と対比しながら説明すると、理解しやすくなることが多い。（嬉しい　悲しい　などの情緒的な領域は、④安松幼稚園の国語教育　日本人の情緒を育みたい　の項目で扱う）
- 文意の理解には、置く　などの動詞を、先生の動きを見せたり、実際に児に作業させながら説明することが有効である。動詞の理解は、文意の理解にとても重要である。

③文字の学び

大人は「これは仕事　これは遊び」と、この両者を分けてとらえることが多いが、幼児の発達段階を調べてみると、幼児には『遊び』と『学び』の区別はほとんどない。

それ故、3，4 歳児になると、文字に興味を持ち出し、「何と書いてあるの」と、大人に聞いてくる時期がある。幼児は、遊びや生活の中で文字に興味を持ち、自然と覚えていくのである。文字を知り読むことも、子供にとっては遊びの一つなのです。

幼稚園生活の中で、これらの児の好奇心を利用しない手はないのである。

その際大切なことを 2 点あげる。

★漢字は平仮名より識別しやすく、読みについては、児にとって平仮名より漢字の方が易しい

★読み書き同時指導ではなく、読みを先行する

補：読み書き同時指導は非常に大きな問題（間違い）で、日本人の国語力を貶めている。これが日本人の漢字力、国語力に蓋をし、情操や思考力を制限している。

補：教材の開発は、大人が頭の中で難しい優しいを考えるのではなく、目の前の子供に当たるべきであり子供の発達段階を基に開発しなくてはならない　ということを忘れてはなりません。

④安松幼稚園の国語教育における分野・領域　　日本に伝わる文化、日本人の情緒を育みたい

●絵本の読み聞かせ

●俳句

●和歌（短歌）

●ことわざ　　四字熟語など

●古典　①論語（書き下し文）

②吉田松陰先生などが書き残された和文（漢字かな交じりの書き下し文）

③平家物語　　枕草子　　などの日本の古典からの朗誦

●歌唱　　きれいな格調高い日本語で綴られた唱歌・童謡・民謡

ここ 30 年ばかりの情緒溢れる大曲

Ⅲ．評価（C）

●評価のために、安松幼稚園における国語教育の目的について、もう少し明らかにしていきたい。

Ⅰ．目標設定（P）で述べたように、安松幼稚園の設立趣意書から、幼稚園設立の最大目標は日本の文化を次の世代に伝えることにあり、その中核は、国語教育であると理解できます。

それ故、この要点をはずしての評価はあり得ません。

そこで、評価の基準を明らかにするために、次の点を確認したく思います。

●文化と国語（言葉）の関係…雑誌『致知』2025 年 6 月号より引用　**下の矩形が評価の基となります**

> これからの日本を考える時、鍵になるのは日本人の文化力です。
> 国を亡ぼすのに戦車は要らんのです。どうするかと言うと、だいたい二十五年ほど、その国の母国語を使用禁止にする。そうすればその国に受け継がれてきた精神的な核、アイデンティティがたちまち消えてなくなると言われています。すなわち、言語が受け継がれなければ、文化が受け継がれない。国語はそれほど大事なものなんです。
>
> 日本人には、沈んでゆく夕陽や、道端に咲いている一輪のスミレの花を見て美しいと感じる心、それに加えて「もののあはれ」を感じる心があります。この無常感が日本文化を貫く大きな特徴です。自然は時に大災害をもたらしますから、日本人は畏敬の念も深く持ち合わせていて、自然への美的感受性が磨き抜かれているんです。いかにこの感受性を子供たちに受け継いでいくかが、重要となります。
>
> さらに加えれば、私たち日本人は、ふと聞こえてくる虫の音を美しいと感じますね、西洋の人たちの多くは、これを騒音、ノイジーと認識すると言います。古来日本人は、散っていく桜の花や秋の虫の音色に自分の命の儚さを重ね合わせ、すべてのものは移り変わっていくのだという無常観を胸に宿してき

た民族だと思います。それは「もののあはれ」という言葉に色濃く表れています。このように先人たちが紡いできた美的感受性を、**実体験に加えて、古典、読書を通じて**知り、そこに命を重ねていけば遥かに豊かな生き方が出来ると思います。

上記の矩形の内容が、文化を次の世代に伝えるという真意であり、国語が重要な役目を果たしていること、そして実体験に加え読書の大切さを述べています。

●評価

今回のテーマは、文化の伝承を目的とする国語教育という、非常に評価の難しい分野を取り上げました。幼稚園において、テストで評価するなんていうのはナンセンスであり、それ故、児たちの変化を**先生方が感じる　保護者が感じる**という観点からの評価になります。

Ⅱ．実行（D）の　①語彙・単語の獲得　②次には文章の意味を理解できるか　③文字の学び　については、先生　保護者共に、入園後の児たちの変化を観れば、幼稚園の目標を充分に達成していると評価します。

④安松幼稚園の国語教育における分野・領域　日本に伝わる文化、日本人の情緒を育みたい　については、三つの実例・実践をあげたく思います。

☀　一つめは俳句指導における例としてお母さんから頂いたお手紙を記載します。

●幼稚園児にここまで情緒が育つものかと

——　子供が大人より五感で春を感じ　うぐいすを見て

俳句を詠む姿は　まるで長老のようで

本当に幼稚園児かと思うぐらいでした　——

年中　保護者

過日、子供が幼稚園のバス停に行く途中の公園で、ふと立ち止まり遠くの木を見上げていたので、どうしたのか聞くと、「きれ～い！　白いお花が咲いたね。昨日は咲いてなかったのに。暖かくなってきたからお花が咲いたんだね」と。

私はいつも急ぎ足で、全く目にも留まっていなかった木に、白い木蓮の花がたくさん咲いていました。そして少し歩き始めると、近くの木にうぐいすが三羽止まり、私が「あ、うぐいす」と言うと、心之助が大きな声で　「うぐいすや　ちょいと来るにも　親子連れ」と俳句を詠んで、

「ママ、春が来たね～。気持ち良いね～。」と言って、軽やかな足取りでバス停に向かいました。

朝の小さな一コマなのですが、子供が大人より五感で春を感じ、うぐいすを見て俳句を詠む姿は、まるで長老のようで、本当に幼稚園児かと思うぐらいでした。（笑）

まだ 5 歳少しの子供が、これだけの感性と表現が身に付いて育ってくれている事を嬉しく、俳句を幼稚園で取り入れてくれる事は、知識として学ぶという事だけではなく、感性・情緒をも磨き育ててくれているんだなと。

家ではなかなか学べない事を教えて下さる安松幼稚園、その先生方の熱心なご指導に、改めて感謝しました。

この内容は、雑誌『致知』の 2025 年 6 月号にも　取り上げられています。

☀　二つ目は、歌唱指導についてです。

安松幼稚園の歌唱指導では、

※子供たちによい曲（美しい旋律など）に触れさせたいという音楽の観点

※格調高い綺麗な日本語で書かれた詩に触れさせたいという国語（日本語）の観点

※唱歌・童謡を通じて、時代を超えて残すべき日本の文化を子供たちに伝えたいという社会学的な観点

から選曲しています。

それでは、ある保護者からのお便りを紹介し、評価の一助とします。

先生方の熱意ある指導から引き出された 子供の溢れんばかりの情緒・感性に涙

年中保護者

先日の音楽会、本当に一生懸命に先生の指揮を見て、追って、真剣に歌う子供達の姿に涙が溢れ、先生方の熱意ある指揮にも感動しました。心より感謝申し上げます。

今までは、家で歌ったりすることは少なかった息子ですが、音楽会が終わった今も毎日よく歌っています。

その中の出来事なのですが、主人とともに涙したことがありました。

息子はよく「年長さんの声はすごくきれいやねん」と言っています。特に『やさしさに包まれたなら』が好きなようなので、CD を聞かせてみました。

すると息子は、「これ、違う……」と言いました。（以下、私達の会話です）

㊐「何が違うの？」

㊑「声も違うけど……年長さんが歌ってるやつ聞く方がいい」

㊐「どうして？」

㊑「年長さんの、きれいやねん。とくにな、あの『カーテンを開いて……目に映るすべてのことはメッセージ』　が好きや。あれ聞くと、涙出てくるん。

なんかなぁ、勝手にぶわーって出てくるん」

㊐「どんな気持ちなの？」

㊑「……きもちよくて……あったかくてなぁ……やさしい気持ち。

いつも練習で聞いてて、幼稚園で泣いてしまったん、恥ずかしいから かくしたけどな」

と、ニッコリ笑いました。

息子の言葉に夫婦で驚き、涙がこぼれました。

まだ“感動”という言葉を知らないのでこのような表現になっていますが、息子の気持ちは十分に伝わりました。息子も、大人と同じように、歌を聴いて感動する心が育っていたのですね。

もうなんだか……息子の成長に夫婦で涙です。

年中に転入しわずか 3 か月、先生方の日々の熱意と誠意ある指導のおかげで、歌うということだけでなく、このような素晴らしい情緒・感性を育んで頂いたこと、本当に嬉しく心から感謝申し上げます。

☀　三つめは　平家物語より　『祇園精舎』　の朗唱　　の教案を挙げておきます。

※日本の文化の特徴の一つとして挙げられるのは、すでに述べましたが、『全てのものはうつりかわり、ずっと同じ状態でとどまることはない』という日本人の無常観すなわち『物のあはれ』でしょう。

日本人は、散りゆく桜にも自分の人生を投影し、秋の虫の鳴き声にも様々な人生の生き様を観ることができる。多くの外国人は、虫の鳴き声は喧しいもの（noisy）と捉えるようです。

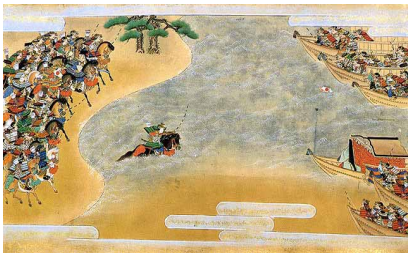
※平家物語の一節にて、日本人のもつ　美的感受性　美的情緒に　触れてみる。

平家物語

保元の乱平治の乱に勝利した平家と、敗れた源氏の対照的な姿、その後の源平の戦いから平家の滅亡、没落しはじめた平安貴族と新たに台頭した武士たちの人間模様を描いている。

作者　不詳　　盲目の僧である琵琶法師により語り継がれてきた。

祇園精舎の鐘の声
諸行無常の響きあり
沙羅双樹の花の色
盛者必衰の理をあらわす
おごれる人も久しからず
ただ春の夜の夢のごとし
猛きものもついには滅びぬ
ひとえに風の前の塵に同じ



☀パワーポイントにより四季の移り変わりや、源平の戦い、沙羅双樹の花などを観せ、映像からも、上記の意味を捉えさせている。

以上の様に、創立時の理念までに想いを馳せ、次世代の子供たちに　日本の文化を伝える大切さ　その要諦は国語教育であること　そして様々な実践を紹介し、評価の一助に保護者の感想も数点添えた。
先生方が毎日観つめている　日頃の子供たちの目覚ましい成長ぶり、美的感受性が子供たちに育っていることから、安松幼稚園における国語教育は素晴らしい成果を上げていると、高く評価するものである。

Ⅳ．改善（A）

●今回の学校評価のテーマは、　次世代への文化の伝達　そのための国語教育　と、目に見えるものが対象でないので、なかなかに色々と難しいところがあったが、先ずは先生の実感　多くの保護者の感想などを基に、評価まで進むことが出来た。

四字熟語や俳句や古典など、**教材としての選択の基準**は、

・子供の身の周りで起きること　　・生活体験からスッと理解しやすいもの　　なおかつ
・今後の人生において身につけてほしい　感性・情緒・知識が含めれているかどうか

などを見極めて、判断しています。

色々な方の意見や質問を受けたり、今回のような学校評価の機会は、独善的な独りよがりの思考・行動を是正でき、全体を俯瞰しながら多方面にわたり色々なことに考えを及ぼす機縁になると感じました。

今回の自己評価においても、単一の思考に陥ることなく、上記の**教材としての選択**に、常に新しい知識を吸収し風を吹き込む必要がある。これらが、**事態の改善に直結する**と考えている。

●上記の自己評価を、学校関係者評価の会に提出し、色々な論考を頂く所存である。

令和６年度　学校評価（学校関係者評価）

Ⅰ．最初に

今回、学校関係者委員会に提出された令和 6 年度の学校評価（自己評価）は、**「次世代への文化の伝達　そのための国語教育」**がテーマでした。

❶幼稚園の設立理由に関わる　とてもスケールの大きな内容でした

❷私たちも、色々と学びながらの　学校関係者評価となりました

❸この 6 月に発刊された雑誌『致知』に、今回の学校評価（自己評価）に関わる記事が大きく取り上げられていて、その内容も参考にしながら、学校関係者評価を行いました。

Ⅱ．先ずは、自己評価の検証

⑴　テーマ（P 目標設定）

幼稚園の設立理由に関わるとてもスケールの大きな内容であり、安松幼稚園に関わるものとして、とても意義あるテーマ設定であると存じます。

⑵　具体的にどのような事をされているか（D 実行）　そして　（C 評価）

私たち委員は全員、かつて子供を安松幼稚園に通わせていました。

その時の経験から、文化の伝承の意義　そのためには国語が決め手になることを強く感じてまいりました。

自己評価の（D 実行）の中にありますように、

3 歳児などの入園時には　**①語彙・単語の獲得　まずは、話し言葉を多く獲得させること**　そして

②次には文章の意味を理解できるかが、次の大きなステップとなる　については、本当に自己評価通りであり、丁寧な綺麗な日本語で語りかけてくれていました。

③文字の学び　については、我が子の入園時を思い出せば、まさに平仮名より漢字の方が覚えやすく、自分の名前なども、漢字の方が識別が早かったことを思い出しました。本当に自己評価に記されている通りであると評価します。

④安松幼稚園の国語教育における分野・領域　日本に伝わる文化、日本人の情緒を育みたい　における

●絵本の読み聞かせ　●俳句　●和歌（短歌）　●ことわざ　四字熟語など

●古典　①論語（書き下し文）

②吉田松陰先生などが書き残された和文（漢字かな交じりの書き下し文）

③平家物語　枕草子　などの日本の古典からの朗誦

●歌唱　きれいな格調高い日本語で綴られた唱歌・童謡・民謡　ここ 30 年ばかりの情緒溢れる大曲

これらの分野は、児たちの情緒を豊かにし、美的感受性を育んでくれています。これらは、保護者の感想にも具体的に記されていて、私たちも感動しました。

さらには、学校関係者委員会としても、安松幼稚園における国語教育が大きな成果を上げていると認識し、私達学校関係者も、安松幼稚園の自己評価を適正とお認めします。

⑶　A 改善

安松幼稚園においては、普段の勉強会などを通して、新たな教材の開発に取り組んで頂いていることに感謝し、古典などの朗誦を楽しみにしたいと存じます。

Ⅲ. 最後に

今回の学校関係者の会では、致知 6 月号に大きく取り上げられていた**安松幼稚園の国語教育**の記事は大きな学びとなりました。

色々と自己評価を検証してまいりました。

ここに学校関係者評価として、自己評価が適切であると認めます。